

御嶽山における火山防災への取り組みについて

主な過去の災害

■1979年（昭和54年）

水蒸気噴火

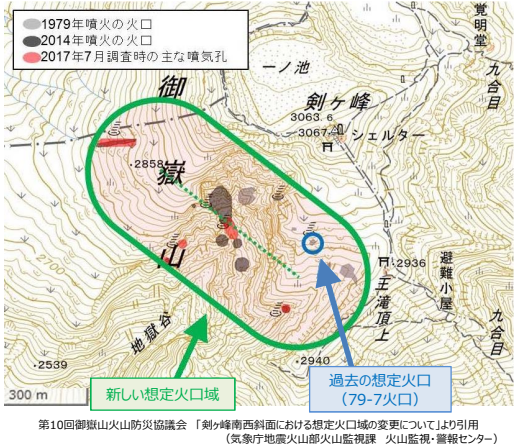
■1984年（昭和59年）

地震、山体崩壊

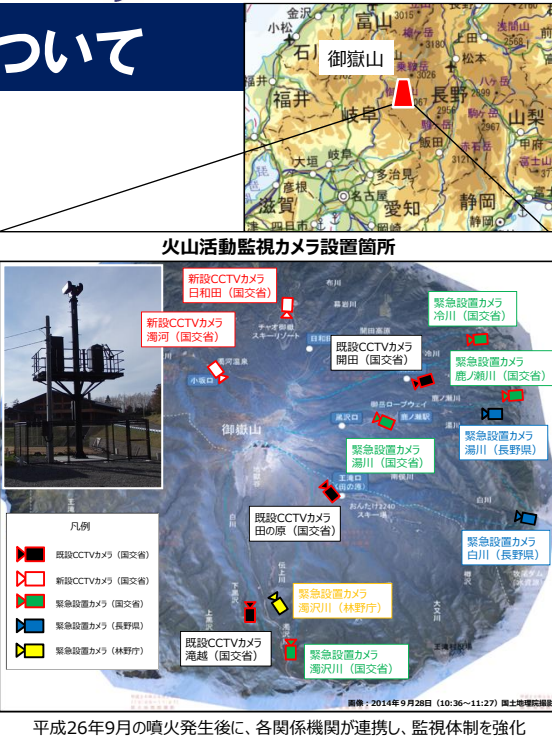
■2014年（平成26年）

水蒸気噴火

平成26年9月27日11時52分頃、御嶽山が噴火し、戦後最悪（死者58名、行方不明者5名）の被害が発生



気象庁では今後、剣ヶ峰南西斜面で再び火山活動が高まった場合、79-7火口だけでなく、2014年の噴火で新たに形成された噴火口・噴気孔も含めた領域から噴火が発生する可能性があることから、想定火口域として幅500m、長さ1,100mの範囲を設定



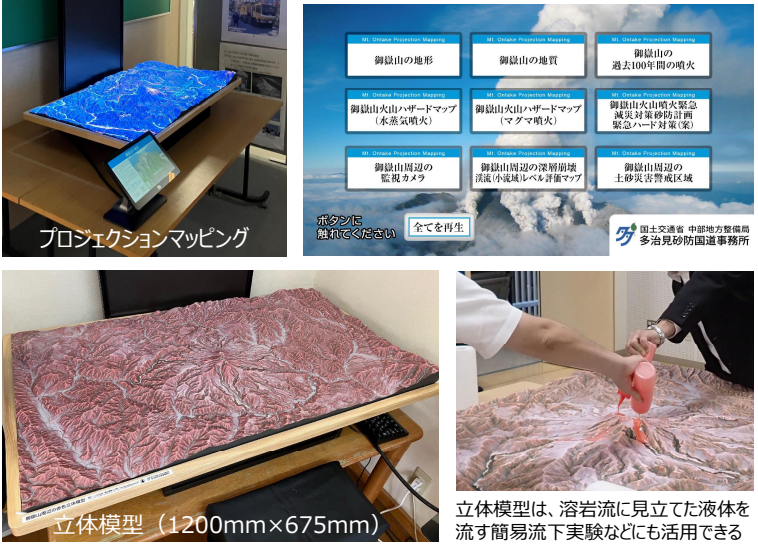
噴火時の行動タイムライン(案)の作成

御嶽山噴火時の土砂災害対応について、関係する機関（国、県、市町村）と話し合う座談会を開催し、意見交換を踏まえて行動タイムライン（案）をとりまとめた。

関係機関と連携して作成した噴火時行動タイムライン（案）※一部を抜粋		
噴火警戒レベル		
2 (火口周辺規制)		
3 (入山規制)		
火山活動状況		
時間目安		
噴火活動の想定		
想定される土砂移動現象等 ※斜線は緊急ハード対策で対象としたい現象		
局及び事務所体制		
シミュレーション実施 ※計算は管内の各事務所に依頼		
防災体制		
情報共有方法確立の整備		
緊急減災対策のための調査 ※計画書の役割分担に記載なし		
緊急減災対策		
ハード対策		
ソフト対策		
入山規制・通行規制など ※参照：御嶽山火山防災避難計画（令和5年2月）		

立体模型とプロジェクションマッピングシステムの作成

平常時における火山防災情報の周知啓発ツールとして、御嶽山の立体模型にハザードマップや様々な情報を投影できるプロジェクションマッピングシステムを作成した（立体模型は、様々なアナログ実験にも利用が可能）。



「信州 火山防災の日」制定記念シンポジウムでの出展

令和5年9月23日（土）に木曾町文化交流センターで開催された、「信州 火山防災の日」制定記念シンポジウムに御嶽山の立体模型を用いた溶岩流出シミュレーションや、災害現場を明るく照らし、夜間作業を支援する照明車の展示等を行い、国土交通省の取り組みについて周知を図った。



2014年の噴火から10年余りが経過し、噴火を知らない担当者もいることから、当時の担当者からその対応状況を聞きとり行動タイムラインに反映